

2023年2月期(2022年度) 第2四半期

決算説明会



イオン九州株式会社

2022年10月5日(水)

1. 2022年度 上半期の業績
2. 2022年度 主な取り組みの状況
3. 2023年2月期 業績予想

上半期業績は、各段階利益で過去最高を更新

- 収益認識に関する会計基準等の適用により減収となりましたが、各段階利益は過去最高を更新
- 利益剰余金の増加により純資産は前期末に比べて増加、自己資本比率も上昇

(単位:百万円)	2023/2期 上半期		前期 上半期	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比
営業収益	235,991	—	239,917	226.9%
営業利益	3,122	121.1%	2,579	—
経常利益	3,516	124.7%	2,819	—
四半期純利益	2,477	142.1%	1,743	—
総資産	160,649	+2,753百万円	157,896	(期末実績)
純資産	43,890	+1,846百万円	42,043	(期末実績)
自己資本比率	27.3%	0.7pt改善	26.6%	(期末実績)

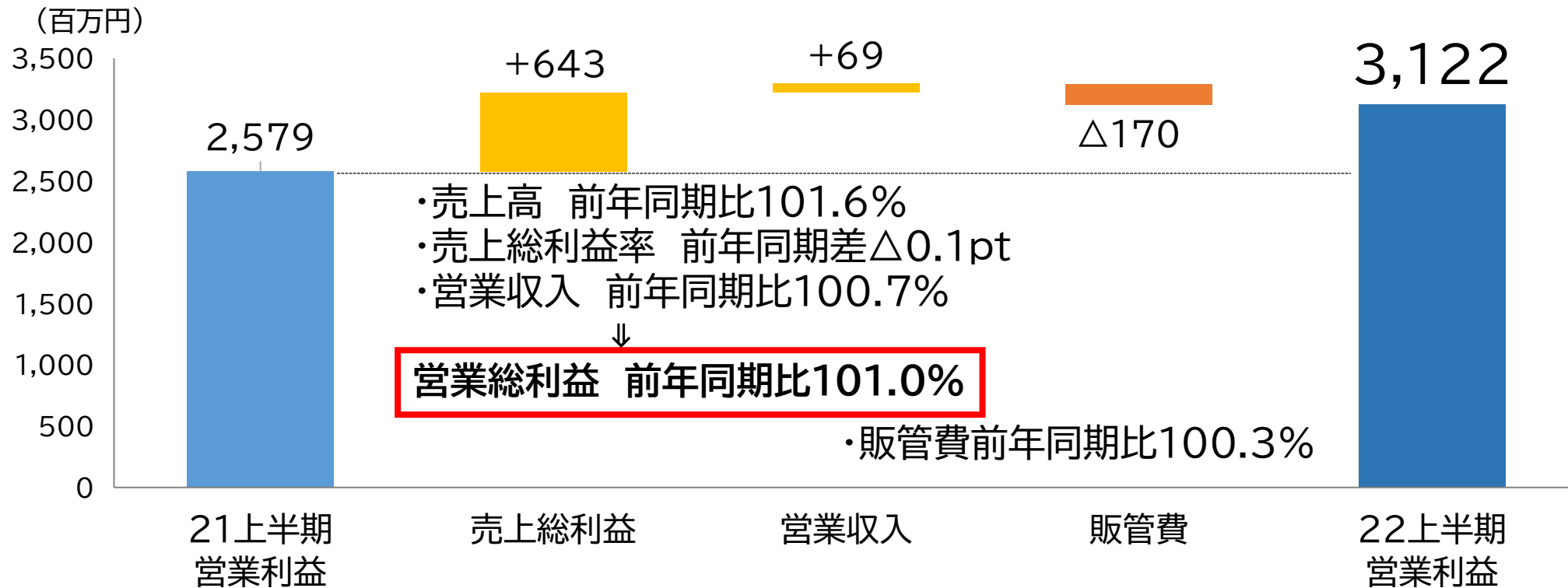
収益認識に関する会計基準等適用による影響を除くと増収・増益

- 売上高・売上総利益・営業収入ともに前年同期を上回り増収確保
- 販管費は高騰する電気代影響で増加も、前年同期比100.3%にとどめ、売上比では0.4pt改善

(単位:百万円)	2023/2期 上半期				前期 上半期	
	実績	会計基準変更による影響額	旧会計基準実績	前年同期比(売上比)	実績	売上比
営業収益	235,991	△7,627	243,619	101.5% (—)	239,917	—
売上高	223,740	△9,770	233,510	101.6% (100.0%)	229,879	100.0
売上総利益	57,986	△3,038	61,024	101.1% (26.1%)	60,381	26.3
営業収入	12,251	+2,142	10,108	100.7% (4.3%)	10,038	4.4
販管費	67,115	△895	68,011	100.3% (29.1%)	67,840	29.5
営業利益	3,122	0	3,122	121.1% (1.3%)	2,579	1.1

会計基準変更の影響を除くと、増益要因はトツプラインの増加によるもの

- 売上高 主力部門の食品が堅調、衣料品・住居余暇商品の売上回復により前年同期比101.6%
- 売上総利益率 前年同期差△0.1pt低下も売上総利益は前年同期比101.1%
- 営業収入 駐車場やSCスペースを活用した物販催事を積極展開し前年同期比100.7%
- 販管費では、生産性向上の取り組み等により高騰する電気代の影響を抑え、前年同期比100.3%





主力のSM・DS、GMSセグメントの売上が前年同期を上回る

- SM・DS、GMS 売上構成比の高い食品が好調継続、衣料品・住居余暇商品の売上回復
- HC 巣ごもり需要の反動影響はあったものの、強化してきた園芸・ペット関連売上が伸長
- その他 サイクル事業・FC事業ともに売上伸長。一方で、前期の旧ワイドマート店舗閉鎖影響あり

(単位:百万円)	2023/2月期 上半期				前期 上半期	
	売上高	会計基準変更による影響額	旧会計基準売上高	前年同期比(構成比)	売上高	構成比
SM・DS、GMS	212,999	△9,295	222,294	101.7% (95.2%)	218,491	95.0%
HC	9,372	△277	9,650	102.8% (4.1%)	9,389	4.1%
その他	1,367	△198	1,565	78.4% (0.7%)	1,988	0.9%
合計	223,740	△9,770	233,510	101.6% (100.0%)	229,879	100.0%



一部で前期の閉店影響があるものの、全体として前年を上回る

- SM・DS 新店(前期及び当上半期7店舗)効果及び改装店舗中心に売上高は増加
- GMS食品 前期における2店舗閉鎖影響があり、売上高は横ばい
- GMS衣料品・住居余暇商品 行動制限の緩和等により、前年同期に比べて売上高は増加

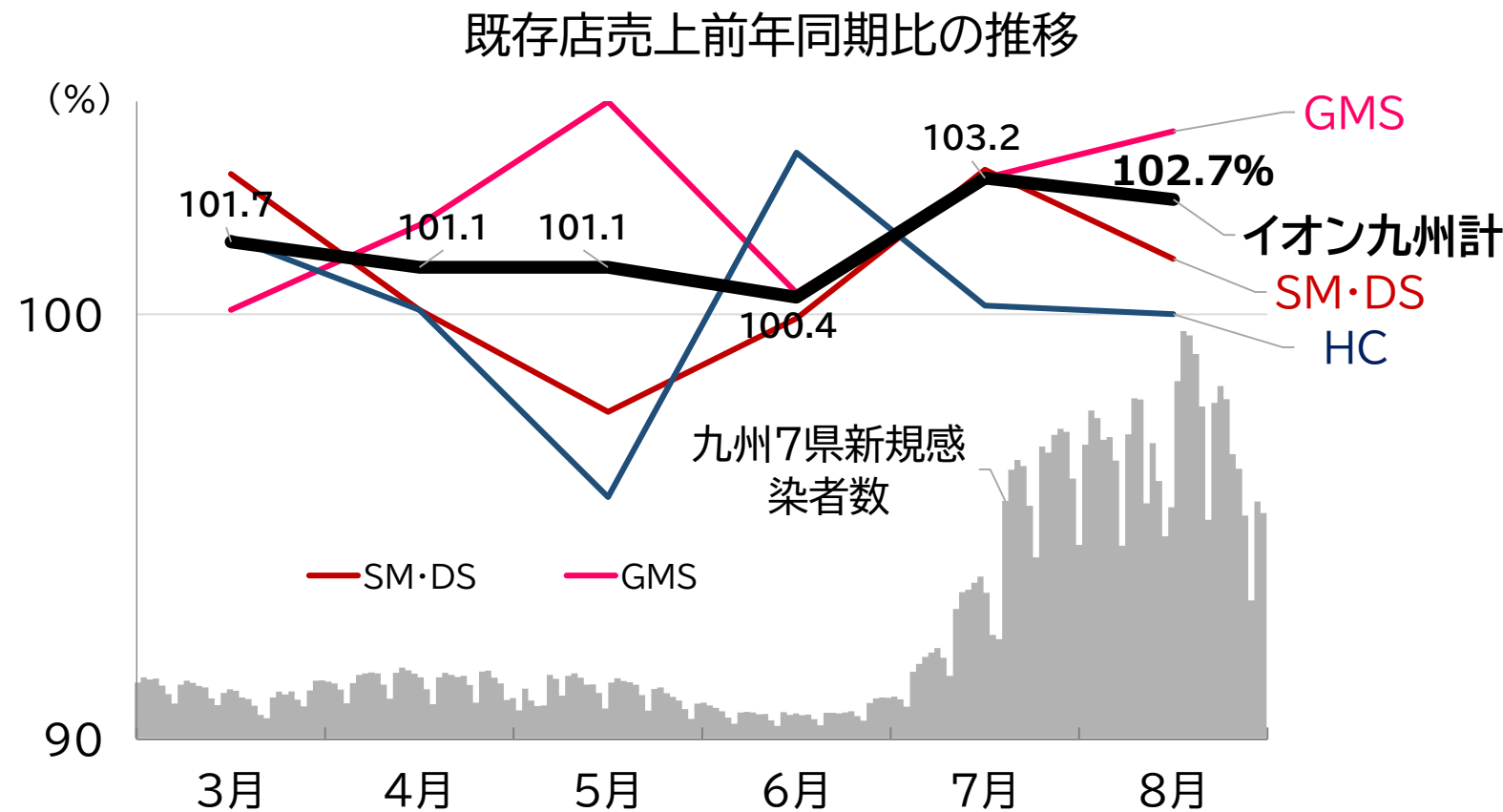
◆SM・DS、GMSセグメントの内訳

(単位:百万円)	2023/2期 上半期			前期 上半期	
	旧会計基準 売上高	構成比(※)	前年同期比	売上高	構成比
SM・DS	110,230	47.2%	102.8%	107,188	46.6%
GMS	112,064	48.0%	100.7%	111,302	48.4%
衣料品	20,629	8.8%	101.6%	20,295	8.8%
食品	72,885	31.2%	99.9%	72,936	31.7%
住居余暇商品	18,532	7.9%	102.6%	18,055	7.9%
SM・DS、GMS計	222,294	95.2%	101.7%	218,491	95.0%

※構成比は、会社計売上高に対する割合を表しています。

コロナ影響が長期化するなかで、既存店の売上は全業態で前年を上回る

- 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は7月以降急増も、行動制限の緩和等によりGMS伸長
- 5月は前年の緊急事態宣言による巣ごもり需要反動減でSM・DS、HCに影響も、6月以降伸長

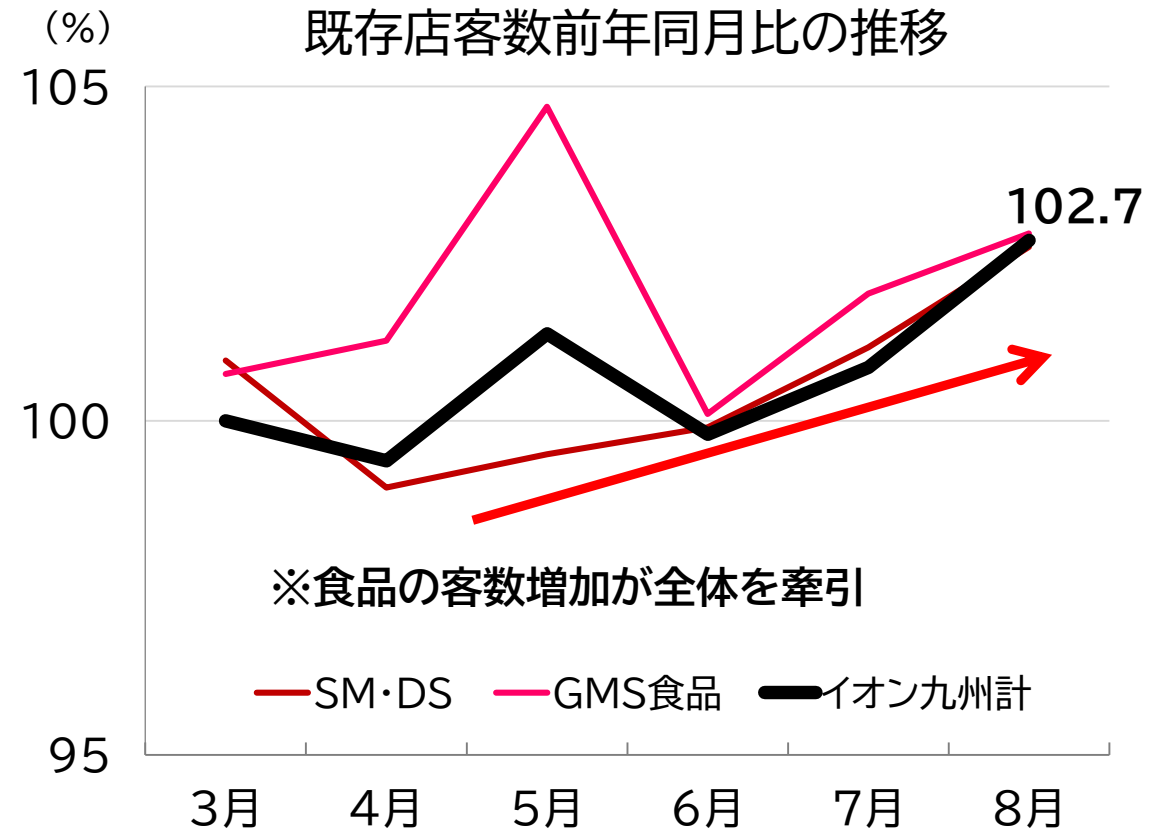


	2023/2期 上半期
	既存店売上 前年同期比
SM・DS	100.9%
GMS	102.6%
衣料品	103.8%
食品	101.7%
住居余暇商品	104.8%
HC	100.1%
その他	103.6%
合計	101.7%

物価上昇の中、生活応援施策を強化しつつ、荒利率影響を抑制

- 食品 NB商品の値上げが相次ぐ中、生活応援施策を強化しつつ、総菜・冷凍食品の品揃えを拡充
- 衣料品・住居余暇商品 比較的利益率が高い服飾雑貨、トラベル、医薬品部門の売上伸長

	2023/2期 上半期	
	旧会計基準 荒利率	前年同期差
SM・DS	23.7%	△0.4pt
GMS	28.2%	+0.1pt
衣料品	37.1%	+0.7pt
食品	24.8%	△0.2pt
住居余暇商品	31.5%	+0.6pt
HC	30.8%	+1.0pt
その他	37.3%	+5.5pt
会社計	26.1%	△0.1pt



今後の成長・生産性改善に向けた投資は遂行、不要不急のコストは抑制

- 人件費 セルフレジ、レジゴー導入によるレジのスマート化及び電子棚札導入等による生産性向上
- 販促費 新聞折り込みチラシを削減し、イオン九州アプリを活用した販促施策を推進
- 設備費 高騰する電気代影響(水道光熱費前年同期比119.2%)の一方で、その他経費の低減

(単位:百万円)	2023/2期 上半期				前期 上半期	
	実績	会計基準変更 による影響額	旧会計基準 実績	前年同期比 (売上比)	実績	売上比
販管費合計	67,115	△895	68,011	100.3% (29.1%)	67,840	29.5
人件費	31,996	0	31,996	100.5% (13.7%)	31,822	13.8
販促費	6,395	△895	7,291	98.2% (3.1%)	7,422	3.2
設備費	24,208	0	24,208	100.3% (10.4%)	24,137	10.5
一般費	4,514	0	4,514	101.3% (1.9%)	4,457	1.9

有利子負債は54億円減少し、有利子負債依存度は△3.8pt低下

- 総資産 27億53百万円の増加 新店及び改装に伴う有形固定資産+14億10百万円
- 負債 9億 6百万円の増加 買掛金+55億82百万円 有利子負債△54億32百万円
- 純資産 18億46百万円の増加 利益剰余金+17億84百万円

(単位:百万円)	2023/2期 上半期末			前期末	
	実績	構成比	増減額	実績	構成比
総資産	160,649	100.0%	+2,753	157,896	100.0%
流動資産	48,374	30.1%	+2,152	46,221	29.3%
固定資産	112,275	69.9%	+600	111,675	70.7%
負債	116,759	72.7%	+906	115,853	73.4%
流動負債	84,842	52.8%	3,010	81,832	51.8%
固定負債	31,916	19.9%	△2,103	34,020	21.5%
純資産	43,890	27.3%	+1,846	42,043	26.6%
利益剰余金	28,250	17.6%	+1,784	26,465	16.8%
その他	15,639	9.7%	+61	15,577	9.9%
有利子負債	31,613	19.7%	△5,432	37,045	23.5%

営業活動によるCFは+83億円、フリーCFは+56億円

- 営業CF 83億78百万円 税引前四半期純利益による資金の増加
- 投資CF 26億79百万円 有形固定資産の取得による資金の減少
- 財務CF 61億25百万円 長期借入金の返済による資金の減少

(単位:百万円)	2023/2期 上半期	前期 上半期
営業活動によるCF	8,378	△3,974
税引前四半期純利益	3,500	2,502
減価償却費	3,419	3,501
その他	1,458	△9,978
投資活動によるCF	△2,679	△3,385
有形固定資産の取得	△2,804	△3,565
その他	125	180
財務活動によるCF	△6,125	2,218
有利子負債	△5,432	2,740
その他	△693	△521

1. 2022年度 上半期の業績

2. 2022年度 主な取り組みの状況

3. 2023年2月期 業績予想

2025年に向けた取り組み

九州の「もっと」を創造し、
九州の発展とくらしの豊かさ、
そして、持続可能な社会づくりに
貢献できる企業であり続けるため、
5つの取り組みを進めてまいります。



・SM(食品)改革

地域商品開発、都市型小型店、PC機能拡充

・GMS(衣料、住居余暇商品)改革

専門店化推進、SNS活用、Eコマース強化

・HC再成長

ディスティネーション構築、ワイド便推進

・DX推進

CXとEXをともに満たすDX推進

・新業態、新事業開発

・人財育成、組織改革

・サステナブル、環境保全・社会貢献

持続可能な社会の実現に向け、取り組み継続

お買い物選択肢の拡大

おうちでイオン
イオンネットスーパー

ONLINE
DELIVERY

九州
ブランド
発信

九州の「魅力」を全国に発信

イオン九州 オンライン

AEON おいづ!
e予約

【ネットスーパー】

前年同期比104.9%

・新規出店、ダークフロア構築
による受注枠・当日配送拡大



イオン福岡東店ダークフロア化

【外部デリバリー活用】

「UberEats」「Wolt」を
活用した店舗商品配送
(8月末時点28店舗)



変化するライフスタイルへの対応

【イオン九州オンライン】

前年同期比116.6%

EC用地域商品の発掘
取扱いアイテム数の拡大



地域商品の品揃え拡大

2022年度の主な取り組みの状況～DX推進:オペレーション改革～

【電子棚札導入店舗の拡大】

累計23店舗導入済(9月末)
(期待される効果)

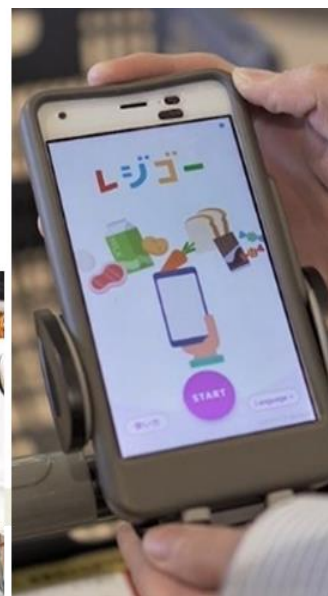
- POP作成・取付人時の削減
- POP印刷枚数の削減
- 売価確認作業の削減



【レジのスマート化推進】

(導入店舗数)

- | | |
|-----------|---------|
| ➢ レジゴー | 累計 26店舗 |
| ➢ フルセルフ | 累計111店舗 |
| ➢ キャッシュレス | 累計 64店舗 |
| ➢ お支払いセルフ | 累計192店舗 |



【デジタル販促・会員基盤構築】

- 「イオン九州公式アプリ」
お気に入り登録累計100万件突破
※累計ダウンロード数86万件超え(8月末)
- 「i AEON」
お気に入り登録累計10万件突破



新規出店によるエリアシェア拡大:上半期の新店は当初計画通り

- 下半期は、福岡市内へのエクスプレス(EX)及びホームセンター新業態出店を計画

地域に根差したSCづくり
(上半期:イオン島原SC)



都市部におけるSM及びEX出店
(上半期:マックスバリュ下大利店)



行政窓口「しまばらん」



インナー&カジュアル
+スポーツウェア展開



ネットスーパー受取ロッカー



冷凍食品品揃え充実

グループ企業とのコラボレーションによるエリアシェア拡大



4月21日にオープンしたウエルシア薬局店内にコンセッションナリーとして出店
(当社として生鮮食品、総菜、弁当、ベーカリー、フローズン商品を展開)



既存店活性化投資によるSC及び店舗の魅力度向上

- 上半期:GMS3店舗、SM6店舗、EX1店舗、DS2店舗
- イオン若松SC(福岡県北九州市若松区)では、新たにホームワイド若松店をオープン



オリジナル商品開発で他社との差別化、生活応援施策を強化



オリジナル商品開発



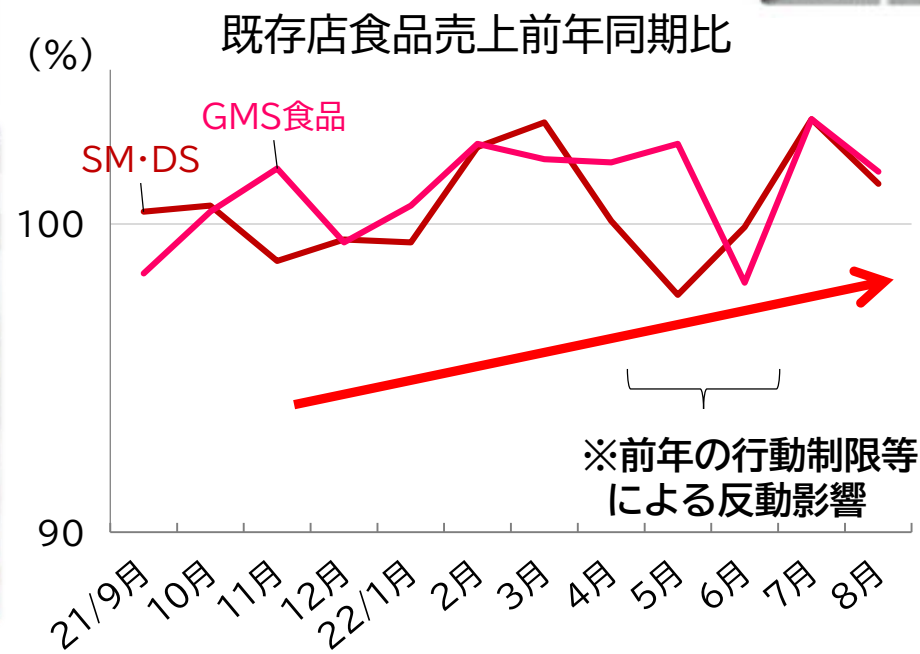
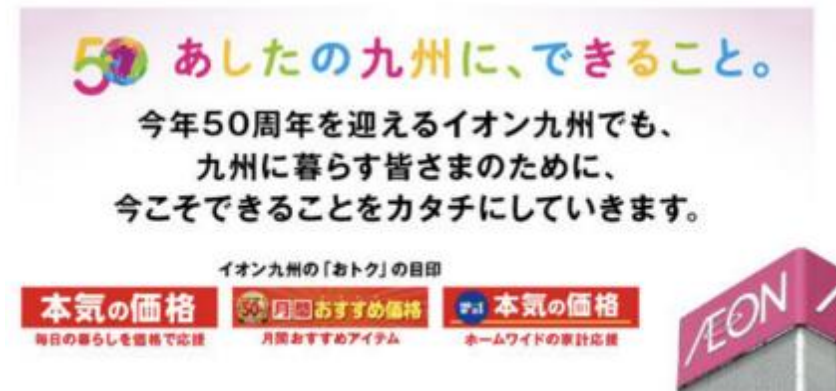
50周年月間おすすめ価格



お取引先さまとのコラボ企画



トップバリュ販売強化



専門化の取り組みを推進

- 【上半期】活性化店舗を中心に新規ショップを導入・スポーツアム売場を拡大
- 【下半期】イオン福岡店リニューアル:雑貨ショップ「smilefull_days」(スマイルフルデイズ)を導入



イオン福岡店に新規導入(9月)



お客さまの毎日の暮らしが
「笑顔いっぱい」の「日々」で繋がっていくことを願い
わたしたちはただ「モノ」を売るだけでなく
だれかの「笑顔」に寄り添った「モノ」を届ける雑貨店を目指します



館全体の集客力を高める取り組みを推進

- GMS店内へのフランチャイズ(FC)事業による出店
- SC・駐車場スペースを活用した物販催事・キッチンカー等を積極展開



FC新規出店・移動販売トラック増車



行動制限緩和の中、感染拡大防止に努めながら
地域の皆さまに楽しんでいただける催事企画を実施



2022年度の主な取り組みの状況 ～イオン九州50周年～



50周年の感謝とこれからの50年に向けた販促企画を推進

- 環境に配慮した商品にWAONボーナスポイントを付与し、お客さま参加型の取り組みとして推進
- 農林水産省、消費者庁、環境省が連携した「あふの環2030プロジェクト」に賛同し「サステナウィーク～未来につながるおかいもの～」というテーマのもとサステナブル商品を展開



環境配慮商品特別ポイント(6月・10月)



環境配慮型商品をお買い上げで
WAONボーナスポイントと同額が
公益財団法人イオン環境財団へ寄付



森の再生のための植樹の苗木代などの
環境保全活動に役立てられます。

6月の環境月間実施結果
苗木約1,000本相当の寄付

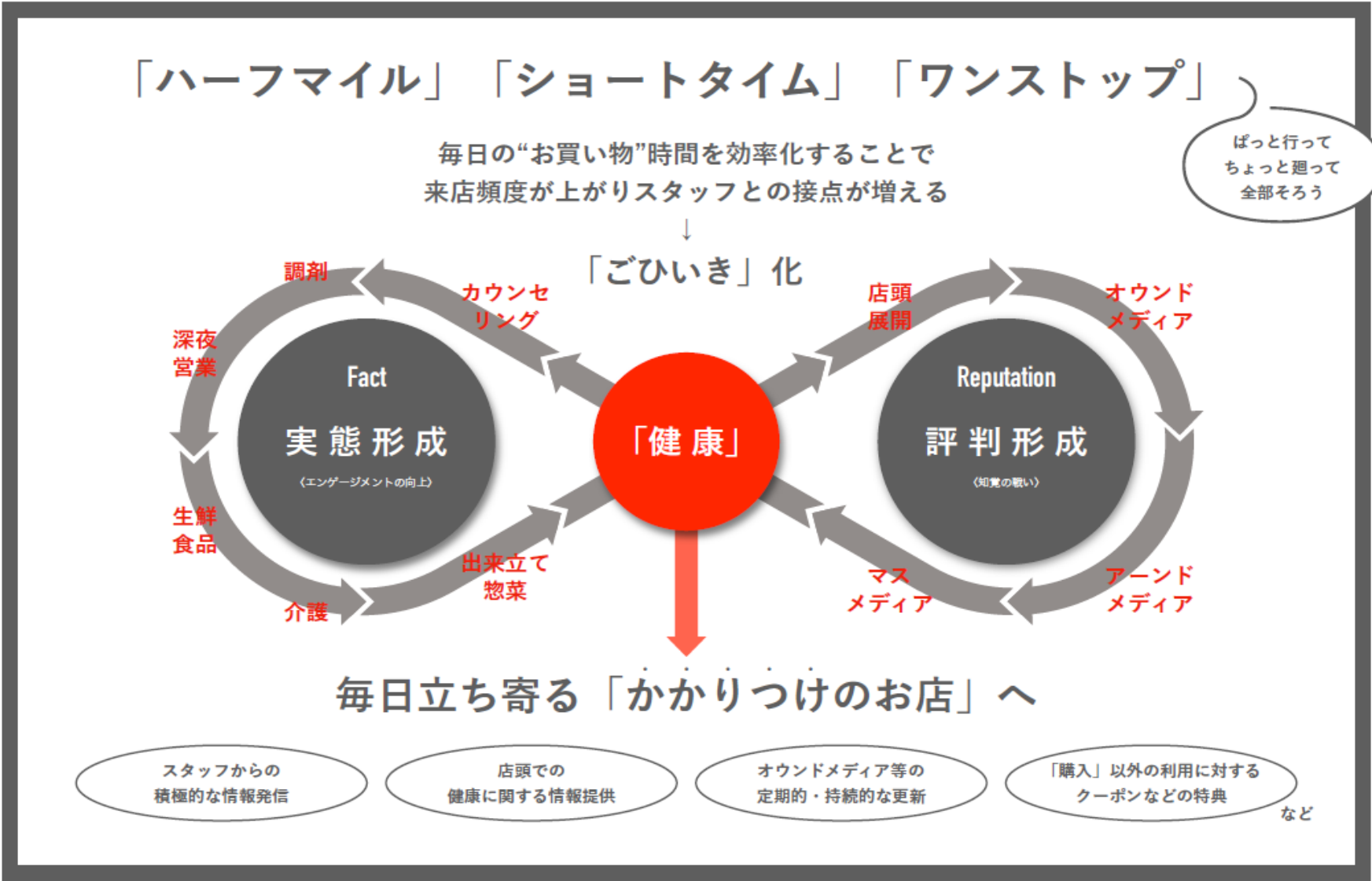
※10月に宮崎県東諸県郡綾町にて
ソメイヨシノなど約30種の植樹を予定



「あふの環2030プロジェクト」に参画
サステナブル商品展開・イベント実施



ウエルシアホールディングス(株)とともに9月1日付けで合併会社を設立



- 調剤
- 深夜営業
- カウンセリング
- 介護
- 出来立て総菜
- 生鮮食品
- アウトパック供給
- 小ロット配送

《ブランド・ステイトメント》

みんなでつくる ひとりひとりの 「Well-being」

ウエルしょ♪

Daily “Well-being” Community

日々のココロとカラダの健康は、毎日のメンテナンスから！
いつも自分らしくあるために、食事も、暮らしも、健康も、一度にまとめて管理したい。
そんな思いが集まって、いろんな情報や体験を共有し合い、ひとりひとりの体験が、
地域全体の健康につながっていく。
私たちは「デイリー・ウェルビーイング・コミュニティ」を目指します。

多目的ガーデニングプレイス「GREEN PICNIC 糸島」

- イオン糸島SC(福岡県糸島市)敷地内に11月下旬オープン予定
- 「GREEN PICNIC 糸島」は、“「みどり」につつまれる癒しの空間”を提供します。



「GREEN PICNIC 糸島」外観イメージ

公式Instagram
または
公式LINE
にて情報発信

Instagram 公式アカウント
グリーンピクニック糸島
ID: gp_itoshima_official



LINE 公式アカウント
グリーンピクニック糸島
ID: @gp_itoshima



「みどり」をコンセプトにした「多目的ガーデニングプレイス」

- 「買う」「食べる」「遊ぶ・すごす」「地域とつながる」の4つのテーマで糸島を訪れる様々な世代のお客さまに楽しんでいただける場所



買う

おしゃれな
グリーンや花を
買う場所

食べる

おいしい
スイーツやランチ
を味わう場所

遊ぶ
すごす

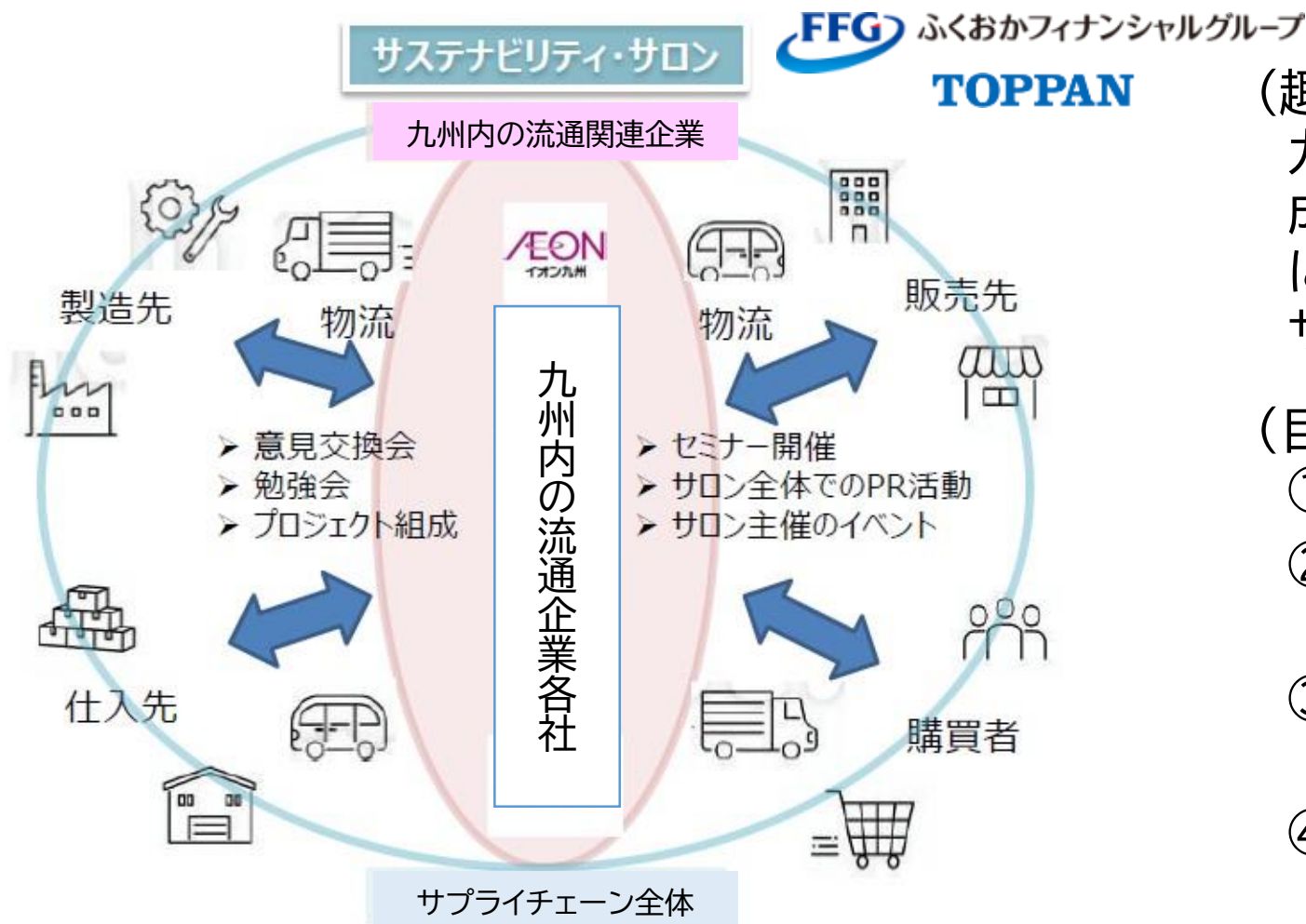
遊具やみどりの
中で のびのび
楽しむ場所

地域と
つながる

マルシェを
開催して地域と
仲良くする場所

九州の流通企業の皆さまとともに持続可能な社会づくりを考えます

➤ 7月に発足した「九州流通サステナビリティサロン」に参画しています



(趣旨)

九州の流通業界における持続的かつ強固な成長の実現に向け、九州内の流通関連企業によるサステナビリティ・サロンを設置、サプライチェーン全体の意識向上を図る。

(目的)

- ① コミュニケーションの場の創出
- ② サロンメンバーによるサステナビリティに関する共同プロジェクトの組成
- ③ コンテンツの提供
(SDGsセミナーなど)
- ④ サプライチェーン全体のサステナビリティ活動の展開へのきっかけづくり

持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進



地域の皆さま・お取引先さまとともに食品ロスに配慮した商品開発を推進



地域連携で開発した商品の販売



「環境にやさしいたい肥」の販売

個社の枠組みを超えたパートナーとの協業による物流改革

- 8月に九州物流研究会を発足し、物流分野で将来起こりうる課題解決および新たな九州物流ネットワークの構築に向けた検討をすすめてまいります。

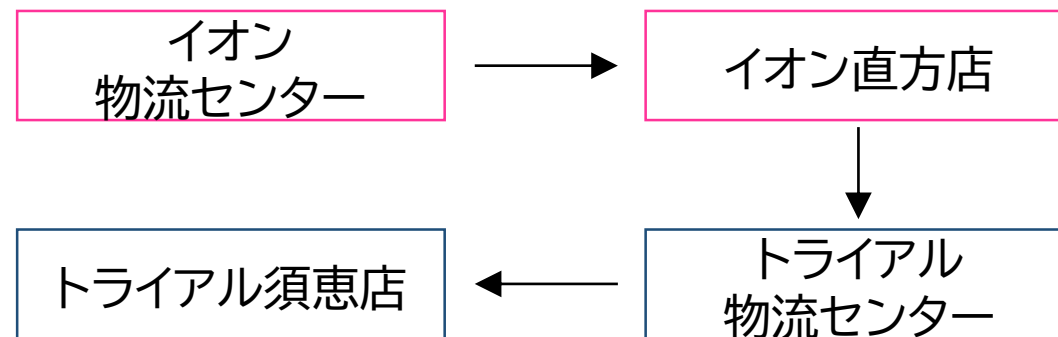
【具体的には】

- ①共同物流の実施に向けた協議、実験取り組み
- ②実験後に順次エリア及び実験会社数を増やし、本格稼働
- ③最終的には更に広域での展開へ

(取り組み事例)



福岡県で共同配送実験開始(10/1～)



走行距離の削減効果
1年で 東京～ニューヨーク間相当

1. 2022年度 上半期の業績
2. 2022年度 主な取り組みの状況
3. 2023年2月期 業績予想

- ウクライナ情勢や急激な為替変動によるエネルギーコスト、物価の上昇等先行きは不透明であり、2023年2月期業績予想は据え置いております。

(百万円)	2023/2期 (計画)	前期 (実績)	前期比
営業収益	477,000	481,199	—
営業利益	5,800	5,663	102.4%
経常利益	6,000	5,994	100.1%
当期純利益	2,800	2,770	101.1%
1株当たり配当金	20円	20円 (普通配当15円+記念配当5円)	

※2023年2月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、当該基準に基づいた予想となっております。このため、営業収益の前期比は記載しておりません。
 なお、当該会計基準等を適用しなかった場合の営業収益は前期比102.0%となります。

ご清聴をいただきありがとうございました。



AEON
イオン九州株式会社

本日発表の予想は、現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える
不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。
実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の予想と異なる場合があります。